

「戦争防ぐ」と核抑止力を正当化 禁止条約を無視

# 被爆地で核に固執する宣言



広島市・原爆ドーム

G7広島ビジョン

## 「広島出身の首相」 名乗る資格はない

「あろうことか、被爆地・広島から『核抑止力』を肯定するような宣言を出すとは」。広島市で開かれた主要7カ国首脳会議（G7サミット）。5月19日に発表された「核軍縮に関するG7首脳広島ビジョン」は、いざというときには核使用をためらわない「核抑止力」論を公然と宣言。被爆者から厳しい批判が上がりました。

G7サミットには、多くの人々が核廃絶に向けての前向きなメッセージを期待しました。し

かし、「核兵器のない世界」は「究極の目標」と位置付けられて永久に先送り。核兵器を「侵略を抑止し、戦争と威圧を防止する」として、「核抑止力」論を宣言しました。

### 核兵器禁止条約を完全無視

その一方で、核兵器の非人道性の告発・批判は一言もなく、核兵器禁止条約についても全く無視しています。首脳らは原爆資料館で何を見たのか。

核廃絶を願う世界の人々を裏切った議長国・日本の岸田首相。「広島出身の首相」を名乗る資格はありません。

志位  
委員長  
が談話

共産党の志位和夫委員長は、「広島ビジョン」について、「被爆地から核に固執する宣言は許しがたい」との談話を発表。日本政府に「核抑止力」論と決別し、核兵器禁止条約への参加を強く求めました。

## 大変な失敗だった 被爆者 サーロー節子さん

カナダ在住の広島市の被爆者・サーロー節子さんは、G7サミットは「大変な失敗だった」と指摘（5月21日）。「自国の核兵器は肯定し、対立する国の核兵器を非難するばかりの発信を被爆地からするのは許されない」と語りました。

## 戦争あおるような会議 日本被団協

日本原水爆被害者団体協議会（日本被団協）の木戸季市事務局長は「核抑止論に立った議論、戦争をあおるような会議になった。大変怒りを覚えている」（5月21日）

歴史に汚点残す 衆院予算委で追及

## 「明らかな後退」



質問する笠井氏

共産党の笠井亮議員は5月24日の衆院予算委員会で「広島ビジョン」について、被爆地から核兵器に

しがみついた宣言を行ったことは「歴史に汚点を残す恥すべきことだ」と岸田首相の責任を厳しく追及しました。

昨年主要20カ国・地域（G20）首脳宣言では「核兵器の使用又はその威嚇を許さない」と明記されましたが、「ビジョン」にはありません。昨年の核不拡散条約（NPT）再検討会議の「最終文書案」は核兵器禁止条約に触れていますが無視。笠井氏は「明らかな後退だ」と批判しました。

日本共産党

## 維新代表 「核共有」議論を主張

維新の馬場伸幸代表は「どういうケースになれば核が使われるのか、国民会で、G7広島サミットにどう対応するか全く分からない。包括的な『核共有』に守られているのは『核共有』議論をやる時期が来ない」と核廃絶に背。否めない」と核廃絶に背。ている」と主張しました。